

令和4年度

飯綱町教育委員会事務の管理及び
執行状況の点検及び評価の報告書



飯綱町教育委員会

1、趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育に関する課題や取り組みの方向性を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検並びに評価（以下「点検・評価」という。）を行います。さらに、教育に関し学識経験等を有する者から得た知見と合わせ、報告書を議会に提出し公表します。

2、点検・評価の対象

令和5年度の点検・評価は、前年度である令和4年度分の事業実績を対象とします。

対象範囲は、地教行法第23条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、本教育委員会が所管するすべての事業です。このうち、本教育委員会作成の「令和4年度飯綱町教育委員会基本方針」における「方針と目標」の具体的実施事業の主なものを点検・評価の対象としています。

3、点検・評価の方法

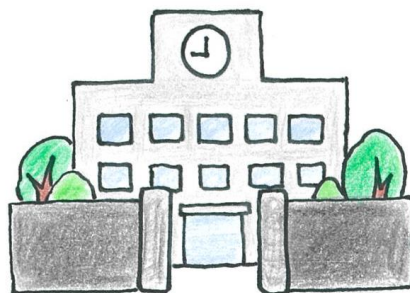
- (1) 令和4年度飯綱町教育委員会基本方針に基づき、重点事業として取り組んだ主な事業について、点検及び評価を行いました。
- (2) 教育に関して学識経験等を有する外部者からの意見聴取を行い、その結果を掲載しました。なお、ご意見等いただいた方々は次のとおりです。
 - 飯綱町学校運営協議会委員
 - 子育て世代支援施設運営委員
 - 保育所運営委員
 - 社会教育委員
 - いいづな歴史ふれあい館協議会委員
- (3) 点検・評価の結果については、定例教育委員会において審議しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



方針と目標

方針1 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

目標 生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう

(1) 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

飯綱町の子どもたちが変化の激しい社会を生き抜くために、自ら課題を見つけ、自ら学び、課題を解決して行動できる資質や能力を育むことができる教育を目指します。

そのために、知・徳・体のバランスがとれた教育活動に取り組み、豊かな人間性を育てていきます。そこで、「個別最適な学び」を支援するために、必要に応じて町費の講師や学習支援員、介助員等を配置します。また、教職員の力量やモラルの向上を図るための研修を充実させるとともに働き方改革に取り組み、教育の質の向上に努めます。

さらに、保育園・小学校・中学校の接続・連携を密にしてスムーズで切れ目のない学びの環境を整えます。

経済的な理由で子どもが学びの場を失うことのないよう、就学援助や奨学資金貸付制度を充実させ、子どもの学びの機会の保障に努めます。

(2) グローバル化社会への対応

一人ひとりの深い学びを追求するツールとして、一人1台のタブレットを有効に活用したICT教育を推進します。

また、小中学校へALTを配置し、外国語学習を通して国際理解を深め世界観や価値観を広げる教育に取り組みます。

(3) ふるさとを愛する心が育つ教育の推進

飯綱町コミュニティスクールを母体とした地域ボランティアの協力を得ながら、ふるさと学習、体験学習、キャリア教育の充実を図り、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつ子どもを育てます。

(4) 学校・家庭・地域の連携と協働の推進

飯綱町コミュニティスクール学校運営協議会、PTA、地域の各種団体が家庭と連携・協力しながら地域の宝である子どもたちを地域全体で見守り、育てていきます。

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

(1) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

飯綱町子育て世代支援施設（みつどんのお家）を拠点に、妊娠期から子育て期をワンストップで支援していきます。

乳幼児期の子どもと保護者が一緒に遊んだり、交流できる場の提供や、母子保健に関わる妊婦検診、乳児検診、各種講習会等を行い、乳幼児の健やかな成長をサポートします。

また、ファミリーサポートセンター事業の充実を図ります。

(2) 楽しく子どもを育てられる環境づくり

子育て世代の多様な働き方を支援し、子育てと仕事の両立を応援します。ワークセンター事業、病後児保育、放課後児童クラブ運営等を充実させ、働きながら子育てをする世代を応援します。

(3) 子育てをしている女性への支援

ハード・ソフトの両面から、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援により、安心して子育てができる環境をつくります。

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

(1) 多様な活動機会の創出

誰もがスポーツや芸術・文化に親しめる環境を整え、体験・鑑賞できる機会を創出します。また、地域団体のスポーツ、文化・芸術活動を支援し、住民の多様な活動を応援します。

(2) 文化の保存・継承・活用

ふるさとの歴史、産業、伝統文化、食文化等を学ぶ機会を創出し、ふるさを愛し、ふるさとに誇りを持つ心を育てます。また、文化財の保存、継承に努め、町の歴史を後世に伝えていきます。

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

(1) 多様な学習機会の創出

町民が生涯にわたって学び続け、生涯学習を通じた生きがいをづくりや人との繋がりを広め、深めていく活動を支援します。また、そのために各種講座や講演会を企画したり、公民館活動の充実を図ります。

(2) 生涯学習拠点の充実

図書施設の機能やサービスの向上など、生涯学習拠点の維持管理に努め、活用を図ります。また、地域のコミュニティや学習の拠点となる地域集会施設の維持や整備を支援します。

4、点検・評価の結果

方針1 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

目標 生きる力を育み、ふるさを愛し、人を思いやる子どもを育てよう

(1) 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

重点的な取組等とその状況	評価
【牟礼小学校】 ①自ら課題を見つけ、自ら学び、課題を解決して行動できる資質や能力を育むことができる教育 ②知・徳・体のバランスがとれた教育活動 ③町費の講師や学習支援員、介助員等を配置 ④保育園・小学校・中学校の接続・連携	【牟礼小学校】 ①自由進度学習を手段の一つとして、子どもたちが自立した学習者となるように、授業改善に取り組んできた。45分間の授業の中で、自ら思考し主体的に取り組む場面を確保し、児童がそれぞれの課題をもって学習に取り組む姿を見ることができた。 ③年度の後半からは、学習支援員、介助員の担当学年を固定化せず、子どものニーズに応じて配置することで、多くの職員が児童にかかわり、必要な支援を行うことができた。

課題

自由進度学習をはじめとし、令和の日本型教育に向けて授業改善に取り組むことに戸惑いや不安もあったが、研究主任を中心に他校を参観し先行実践を行うことで、全職員で授業改善に取り組むことができた。子どもが学習計画を立て個の進度に応じて学びを進めていたので、教材研究や評価等の時間確保に課題が残ったが、次年度以降は今年度の教材等を生かしていきたい。

学習支援員、介助員と担任との打ち合わせの時間を確保することができるように、日課や週暦に位置づけていきたい。

<p>【三水小学校】</p> <p>①自ら課題を見つけ、自ら学び、課題を解決して行動できる資質や能力を育むことができる教育</p> <p>②知・徳・体のバランスがとれた教育活動</p> <p>③町費の講師や学習支援員、介助員等を配置</p> <p>④保育園・小学校・中学校の接続・連携</p>	<p>【三水小学校】</p> <p>個別最適化の学びのあり方を探ることによって、学習意欲の向上や学ぶ姿勢、学びの深まりの改善はもちろんのこと、学級が落ち着いた雰囲気となり、学級経営にも繋げることができた。</p> <p>個別最適化な学びでは、児童自身の学びのマネジメント力も向上することが見えてきたが、個人で学びをマネジメントすることが難しい児童に対しては、個別支援が必要となる。学習支援員、介助員等の支援によって、前向きに取り組むことができた。</p>
<p>課題</p>	
<p>個別最適な学びについては、本年度は職員が個別に探求・研究していて、他の職員に情報提供したり、授業参観したりして全体共通の課題にするまでには至らなかった。来年度は、本年度の個々の経験・探求を持ち寄り、職員全体で共有することによって本校児童にあった個別最適な学びについて探っていきたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】</p> <p>①自ら課題を見つけ、自ら学び、課題を解決して行動できる資質や能力を育むことができる教育</p> <p>②知・徳・体のバランスがとれた教育活動</p> <p>③町費の講師や学習支援員、介助員等を配置</p> <p>④保育園・小学校・中学校の接続・連携</p>	<p>【飯綱中学校】</p> <p>生徒の日常生活、地域の現状や将来、また個人・グループとしての創意工夫等、生徒が取り組みやすい題材を学習課題に設定した。単元や授業の開始では、生徒が自身の仮説や思いを持てることで、個々の学びたい意欲を高めた。学習の過程では、従来の模造紙での表やグラフ等に限らず、タブレット端末の学習アプリを通じて生徒同士が互いの考えや答え等を即時に把握できよう、教材や資料の活用を工夫した。そして学習の終末では、生徒は自身の学びの経過を振り返り、わかったことやできるようになったこと等、学習の様子を確認することができた。</p>
<p>課題</p>	
<p>学校だからできる学びの良さが活かせるよう、学習形態を工夫したい。また学習媒体を紙や電子等、学習活動に応じて最適な形で選べるよう研鑽を積みたい。</p>	
<p>【総務教育係】</p> <p>①就学援助や奨学資金貸付制度による学びの機会の保障</p> <p>【就学援助費】</p> <p>牟礼小学校 26名 17世帯 三水小学校 11名 10世帯 飯綱中学校 21名 20世帯</p> <p>【奨学資金貸付制度】</p> <p>貸付件数 3件 償還開始 5名</p>	<p>【総務教育係】</p> <p>(就学援助費)</p> <p>経済的理由などから就学困難と認められる児童生徒に対し、学用品費や校外活動費などの支援を行う。臨時休業や学級・学年閉鎖中の給食費も支援の対象としたことにより、物価高騰等で支援が必要な家庭の負担軽減が図れた。</p> <p>(奨学資金貸付)</p> <p>平成27年度の制度新設以来、延べ27名の貸し付けとなった。多くの皆さんに活用を図っていただきたい制度であるので、今後も広報・活用促進に努めていく。</p>
<p>課題</p>	
<p>令和2年度から奨学金の償還が始まったが、貸付け・返済期間は、進学先や貸付額によりさ</p>	

まぎまであり、混乱が生じないよう早急に個別管理のシステム導入が必要である。

(2) グローバル化社会への対応

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】</p> <p>①一人1台タブレット端末の有効活用</p> <p>②外国語学習充実のため小中学校へALTを配置</p>	<p>【牟礼小学校】</p> <p>①自分で学びを進めていくことや必要な情報を得ること、友の考え方を知ることなどの学習活動において、タブレット端末を効果的に活用することができた。また、登校できない児童や学級閉鎖時の学びの保障として、リモートでの授業を行うことができた。</p> <p>②英語専科と協力し取り組むことで、授業や校内環境整備などにおいて外国文化の啓発ができた。</p>
<p>課題</p> <p>情報モラル教育の充実や、学習用タブレット端末の安全な利用について児童・保護者とともに考えていきたい。</p> <p>学級担任が行う外国語活動の授業において、ALTと打ち合わせる時間確保の必要性がある。</p>	
<p>【三水小学校】</p> <p>①一人1台タブレット端末の有効活用</p> <p>②外国語学習充実のため小中学校へALTを配置</p>	<p>【三水小学校】</p> <p>授業場面でタブレット端末を適切に活用することができ、ほとんどの児童がスムーズに学びに取り入れることができている。</p> <p>また、オンライン集会や児童会祭り（さみずっ子まつり）、オンラインによるアンケートの回答など、タブレット端末が日常的に使用する学用品となりつつある。</p>
<p>課題</p> <p>タブレット端末の持ち帰りも増えてきている中、使用のきまりについて児童のみならず保護者の理解・協力が得られるようにしていきたい。また情報モラル教育も各学年ごとに進めていくようにしたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】</p> <p>①一人1台タブレット端末の有効活用</p> <p>②外国語学習充実のため小中学校へALTを配置</p>	<p>【飯綱中学校】</p> <p>教科学習、生徒会や学年行事の活動等、生徒は学校における教育活動の様々な場面でタブレット端末の活用を日常化している。また欠席時等の家庭学習や学級活動への参加も、生徒の実態に応じて活用している。</p>
<p>課題</p> <p>生徒がタブレット端末で学習することで、自身の学習の記録が効率よく蓄積される。その記録から、生徒自らがもっと知りたい、もっとできるようになりたいと思う自身の課題を選んで自主的に学習できる方法を指導・支援する。</p>	

(3) ふるさとを愛する心が育つ教育の推進

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】 ①ふるさと学習、体験学習、キャリア教育の充実</p>	<p>【牟礼小学校】 ①生活科や総合的な学習の時間で、地域の学習を進め、地域の人やものから多くのことを学ぶことができた。地域の方を講師に迎えて「わくわく未来塾」を4回開催し、自分の生き方について考えるよい機会となった。</p>
<p>課題</p>	
<p>コロナ禍で地域との関わりが少なくなっていたが、今までの実践や人材を蓄積し、それをもとに発達段階に応じて系統的な指導を行うことができるようにコロナ禍後の計画を見直していく。</p>	
<p>【三水小学校】 ①ふるさと学習、体験学習、キャリア教育の充実</p>	<p>【三水小学校】 ①本年度より地域の方をお呼びしてお話をいただく集会を月に1度設け、様々な方の生き方からたくさんを学ぶことができた。 また、だんどりの会や凸版印刷等、地域の方からの支援を受けて、地域の食やプログラミング教育などの学びを深めることができた。北部高校とりんご栽培での交流を行い、これまでのりんご学習がさらに深まる活動ができた。</p>
<p>課題</p>	
<p>本年度の活動が単発的とならないように、活動の記録を残し来年度も繋げていけるようにしていきたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】 ①ふるさと学習、体験学習、キャリア教育の充実</p>	<p>【飯綱中学校】 ①地域の「ひと・もの・こと」に関わって、地域の現状と課題把握を行うなかで、「いきいきサロン」との交流(1年生)、職場体験と飯綱町のプロフェッショナルを囲む会(2年生)、飯綱町でのSDGsの提案(3年生)を行った。各学習を通じて次年度への学習や地域貢献への意欲を高められた。</p>
<p>課題</p>	
<p>今後も3年間を通して「ふるさとを愛する心」を基本理念とし、総合的な学習の時間で飯綱町を学ぶ機会をつくる。また飯綱町の他の学習資源についても、柔軟に取り入れることも検討していく。</p>	
<p>【総務教育係】 ①コミュニティスクールを母体とした地域のボランティア活動</p>	<p>【総務教育係】 ①学校と保護者や地域の皆さんが力を合わせて学校の運営に取り組む、コミュニティスクール事業の中で、おらほの応援団を組織し、登下校の見守りなど、地域が子どもたちや学校を支え取り組んでいる。</p>

<p>課題</p> <p>今後も学校と保護者や地域の皆さんが力を合わせて学校の運営ができるように、支援体制を整えていくことが必要。 一方で、幅広い分野のボランティアなど、地域の皆さんの人材確保も進めていく必要がある。</p>
--

(4) 学校・家庭・地域の連携と協働の推進

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【牟礼小学校】</p> <p>①地域全体で見守る活動</p>	<p>【牟礼小学校】</p> <p>①安全確保だけでなく、声かけをしていただくなど、登下校の見守りをさせていただきありがたかった。学校運営協議会では、授業を参観していただき、これからの目指す教育についてご理解いただきご意見をいただくことができた。</p>
<p>課題</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今まで控えていたボランティアの方々の来校を再開し、多くの方のご協力のもと、教育活動を進めていきたい。</p>	
<p>【三水小学校】</p> <p>①地域全体で見守る活動</p>	<p>【三水小学校】</p> <p>①飯綱町コミュニティスクール運営協議会において、分散会形式で共通の課題について討論していただくことで、学校運営に生かしていく貴重なアドバイスをいただくことができた。 見守り隊の方々のご都合が合わず、紹介式ができなかったのが残念であった。</p>
<p>課題</p> <p>学校での活動を普段から地域や、おらほの応援団の方々に見ていただいたり、語り合ったりすることで、課題が具体的となる。様々な視点でご意見をいただきながら、学校・家庭・地域と連携した学校づくりを心がけていきたい。</p>	
<p>【飯綱中学校】</p> <p>①地域全体で見守る活動</p>	<p>【飯綱中学校】</p> <p>①8月27日にPTA作業を実施。多くの保護者の参加を得ることができ、短時間で環境整備ができた。 9月1日に「保小中合同引渡訓練」を実施。保護者は、校内では順路に沿って行動できた。また校外は一時的な渋滞箇所はあったが、概ね順調に移動できた。</p>
<p>課題</p> <p>コロナ禍による制約も減少する中で、保護者・地域の皆さんに生徒の様子をより多く見ていただく機会を増やしていきたい。</p>	

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

(1) 子どもが生き生きと育つ環境づくり

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①長野県立大学健康発達学部こども学科との連携（子育て支援係） 「専門講座の実施」「学生及び研究生の参加協力と地域交流」などの実施と子育て支援センターの室内環境づくりで大学の協力をいただく。</p> <p>②子育て世代支援施設（みつどんのお家）の充実（子育て支援係） 子育て支援センターを拠点に健康推進係と連携し、おっぱい教室や健康・栄養相談を開催。</p> <p>③子どもが安全・快適に過ごせる環境づくり（こども保育係） 保育施設の改修や増築、ICT機器の導入など環境整備を行う。</p> <p>④障がい児保育の充実（こども保育係） 令和5年度より南部保育園に四肢不自由な児童が入園予定のため、スロープ設置などの環境整備を行うとともに、看護師の採用準備を行う。</p> <p>⑤ファミリー・サポート・センター事業（子育て支援係） 子育て世代支援施設の開所とともに、託児にあたっては施設での託児も可能とした。</p>	<p>①長野県立大学の教授等から、最新の子育てに関する講義を受けられる貴重な機会となったり、学生による乳幼児とのふれあいにより、新たな環境づくりが進んでいる。</p> <p>②各種教室や相談を、子育て支援センターで行うことで、子育て支援施設が子育ての拠点に定着しつつある。</p> <p>③りんごっ子保育園の保育室へのエアコン設置や全園へ非常通報装置を設置するなどのICT化を行い、安全・安心な環境整備を行うことができた。</p> <p>④一人ひとりの子どもの発達過程や心身の状態は様々で、個々の発達に応じた保育を行うため、加配保育士を配置するなどの配慮を行っている。保護者からの相談により、障がいのある児童もできるだけ受け入れられるような環境の整備を行っている。</p> <p>⑤未就園児の託児は提供会員の自宅だけでなく子育て世代支援施設でも行えるため、提供会員と依頼会員ともにより安心して活動を行えるようになったが、依頼状況は依然として低調である。また、提供会員の高齢化、なり手不足も顕著である。</p>

課題

県立大学とは令和5年度より連携協定を結ぶ予定で、町の子育て環境の充実のため、より一層の連携事業の活用を図っていききたい。

また、子育てをしているママ達は、託児をして仕事に集中できる場、気分転換を図るため趣味を行う場、ママ友などと気軽におしゃべりを行う居場所等が必要であり、子育て中のママ達の様々なニーズに対応できるよう、子育て世代支援施設の運営、環境づくりを図っていききたい。

保育所の運営では、保育ニーズに対応した保育を進めるため、保育士の確保に努めたい。また、老朽化している施設の計画的な修繕等を進めていく必要がある。

ファミリー・サポート・センター事業では、提供会員の確保に向け、子育て中の方や子育てがひと段落した方々など、より多くの方が活動できるよう、受講しやすい養成講座について検討が必要である。また、依頼数が少ないことから、周知・広報に工夫が必要となっている。

(2) 楽しく子どもを育てられる環境づくり

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①子育て世代支援施設（みつどんのお家）を子育ての拠点に（子育て支援係）</p>	<p>①きめ細かに対応するため、健康管理センターの保健師、栄養士との連携を強化し、子育て支援センターでの定期健康・栄養相談回数</p>

<p>妊産婦から18歳までの児童を切れ目なく長期にわたって支援を行うことが可能となり、各種教室、相談事業などを実施する。</p> <p>②ワークセンター事業（子育て支援係） 女性が安心して子どもを産み育てられるよう、ワークセンター（iワーク）を拠点に、仕事と育児等の両立に向けた働き方の提案と働く意欲のある子育て世代への支援を行った。特に、女性活躍推進交付金事業を活用し、女性起業応援プロジェクト事業として、SNS発信講座とマーケットイベントを開催する。</p> <p>③病後児保育事業（子育て支援係） 登録は町内外児10人の登録があり、利用は2人で延べ4日間であった。</p> <p>④放課後児童健全育成事業（児童クラブ）の実施（こども保育係） 町内5つ児童クラブを設置し、小学生の放課後の活動の支援を行う。また、土曜日及び学校の長期休業中も一部の児童クラブを開設し対応している。</p>	<p>を増やすことにより、相談者数も増加し、多くの相談に応じることができた。</p> <p>②SNS発信講座は、起業・出店につながる内容で実施できた。マーケットイベントでは、講座の受講者や町内の女性起業家、町内事業所、女性農業団体などの出店により、多くの交流が生まれた。</p> <p>③病後児保育事業は、事業開始以降、毎年予約日数、利用日数共に4日前後で推移している。お子さんの病気はいつ発症するか予測しにくいため、できるだけ急な申込みにも対応したいと考えている。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの開所となった。町内の感染者数の状況を見ながら、時には家庭の協力を得るなど、運営の工夫や設備の改修、マスクの着用や自己健康観察など、児童クラブ内でクラスターを発生させないよう、感染対策を徹底した上での開設となった。</p>
---	---

課題

子育て世代支援施設は、iワーク、子育て支援センターの各機能に加え、母子保健機能（産婦検診及び乳幼児健診等）が1つになったことから、子育て支援のワンストップ化を図り、仕事、起業、交流、相談、学習、育児発達の支援の強化を一層進める必要がある。また、施設の利用ニーズに合わせ、施設の運営管理基準や利用基準、職員配置計画などが必要となっている。

ワークセンター（iワーク）事業では、センター機能をより広く発信するとともに、若者、女性の移住促進や少子化の改善に繋がられるよう、従来の事務事業の見直しと利用者のニーズに対応する新たな支援施策を提案していきたい。

また、病後児保育事業については、保育室が独立しており感染予防は十分である反面、設備の維持管理や、担当者がある子育て支援センターと距離があり移動に時間がかかる等の面もあり、実施場所や内容等を引き続き検討していく。

児童クラブの運営では、小学校統合以降、利用状況に変化がみられ、牟礼小学校内（牟礼東児童クラブ）、三水小学校内（三水児童クラブ）に利用者が集中するようになっている。指導員の確保やクラブ室のスペースなど、安全に預けられる環境整備が必要である。

(3) 子育てをしている女性への支援

重点的な取組等とその状況	評価
<p>①切れ目ない子育て支援 ②延長保育等保育事業の充実（こども保育係） 3歳未満児保育、長時間保育、土曜日保育等を実施し、子育てをしている女性の支援を行う。</p>	<p>①妊娠期からの切れ目ない支援のため、子育て世代支援施設を中心に各種教室や相談事業等の支援を行っている。保育園期、小中学校期においては、教材費の補助などの経済的支援や加配保育士、学習支援員等の配置など、妊娠期から子育て期において様々な支援を行うことができています。</p> <p>②3歳未満児の入園希望は年々増加しており、できるだけ希望に添えるよう対応している。また、同様に長時間保育、土曜日保育の</p>

	希望も増えているができるだけ需要に対応できるように保育士の確保などに努めている。
課題	
<p>妊娠から就園まで、保育園から小学校へ、小学校から中学校へと、切れ目ない子育て支援を行うためには、それぞれの連携はもちろんのこと情報の引継ぎが重要となる。引き継ぎがスムーズにできるよう保・小（小・保）接続プログラムの作成を進める必要がある。</p> <p>また、保育事業では、各サービスの利用者の増加に伴い保育士の確保が課題となっており、会計年度任用職員を含め計画的な職員採用が課題となっている。</p>	

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

(1) 多様な活動機会の創出

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①スポーツ協会、文化協会への補助金交付 多くの町民が文化芸術・スポーツに親しむ関連団体に対し、補助金の交付を行う。</p> <p>②社会体育施設、学校施設の開放 町内の団体や個人が、文化芸術・スポーツ活動に親しむ機会の創出のため、各種施設の開放を行う。</p> <p>③各種スポーツ教室の開催 冬季運動教室（ヨガ教室）や幼児・小学生水泳教室、アクアフィットネス教室などスポーツ教室を開催する。</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①町スポーツ協会、スポーツ少年団、文化協会をはじめ、婦人会などの社会教育団体へ活動補助を行ったが、各種団体もコロナ禍により自粛が続き、補助も活動に見合った補助額となった。</p> <p>②コロナ禍による施設開放の制限もなくなり、利用者数もコロナ禍前に戻りつつある。ただ、コロナ禍が終息したわけではないので、引き続き感染予防に注意しての開放となる。</p> <p>③コロナ禍で、町の感染状況をみながらの開催ではあったが、健康増進のためのスポーツ教室の開催ができた。</p>
<p>課題</p> <p>コロナ禍による各種団体や個人の活動、公民館事業等の中止や縮小により、地域コミュニティの場、地域間交流の場は限られてきた。コロナ禍を見直しの良い機会と捉え、地域コミュニティの場として、積極的な事業展開を図っていく。</p>	

(2) 文化の保存・継承・活用

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①文化財調査委員会を文化財保護審議会へ改組 専門職員が減少する中で、専門的な知識を持つ方を審議員として委嘱し、意見を申し出ることができる権限を持たせることで、保存や活用に力を入れていこうとする目的で改正。</p> <p>②文化、芸術に関する各種講座の開催、歴史ふれあい館特別展の開催 歴史講座や小学生を対象にした芋川用水見学会など各種講座を開催する。また、特別展「飯綱町と水の恵み」を開催する。</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①条例改正に伴い文化財保護審議会が発足し、検討中となっている指定案件の審議に弾みをつけたいところだったが、今年も感染症対策の影響から会議開催や視察はやむなく停滞した。指定を検討することは埋もれた町の文化資源が再発見される貴重な機会であり、住民の文化財への関心が高まることが期待される。</p> <p>②地域の自然・歴史・文化等を扱う拠点である歴史ふれあい館の展示改善や魅力的な企画展の開催など、町政20周年を目途に計画的に</p>

<p>③指定文化財の適切な保護管理 補助金の交付や文化財の通年管理を行う。</p> <p>④埋蔵文化財の保護 開発に先立つ発掘調査や記録保存作業を行う。</p> <p>⑤ふるさとへの誇りや愛着心の醸成を図る 町の伝統や自然、歴史に関する各種講座の開催。</p>	<p>進めるため基本構想を策定することができた。</p> <p>③指定文化財の保護のため、防犯カメラ設置や高枝除去のための補助を急遽行う。不安を抱える所有者に、迅速な対応ができた。</p> <p>④文化財保護法に基づき、試掘確認調査や工事立会などを実施した。</p> <p>⑤「飯綱町と水の恵み」をテーマに歴史ふれあい館特別展を開催。町の生命線である、河川・用水・水道水源等の歴史と現状について紹介。また、子どもたちの夏休み期間中に芋川用水を見て歩く見学会を開催。子供から大人まで水をテーマにふるさとへの誇りや愛着心を醸成するきっかけとなるようなイベントを開催することができた。</p>
<p>課題</p>	
<p>文化財所有者は日頃から防犯や安全上の懸念を抱えている。今後も所有者の不安に寄り添いつつ、適切な文化財の保存管理に取り組む。</p> <p>また、埋蔵文化財の保護では、開発事業者による法に基づいた届け出義務及び、届出までのフローチャート等を作成するなど、理解が深まる周知方法を模索・試用しながら進めてきた結果、理解は深まってきている。しかし、書類の記載内容や留意事項に対しての理解が十分浸透していない様子が見受けられるので、今後も引き続き周知していく。</p>	

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

<p>(1) 多様な学習機会の創出</p>	
<p>重点的な取組等とその状況</p> <p>【生涯学習係】</p> <p>①公民館活動 町民球技大会や元旦ジョギング大会などの町民参加型スポーツイベントの開催、公民館図書室を中心に読書活動の推進を図る。</p> <p>②いっづな大学、いっづな教室の開催 生涯、活躍を続けるアクティブシニアの養成を目指し開催した。</p>	<p>評価</p> <p>【生涯学習係】</p> <p>①コロナ禍により、町民運動会や球技大会などのイベントは中止や規模を縮小しての開催を余儀なくされ、分館の活動も同様となった。</p> <p>②コロナ禍の影響もあり、また、大学以外にも様々な学びの場がある中、いっづな大学の受講者は減少となった。開催回数・開催時間・定員数はほぼ通常通りに戻し、感染予防を徹底したうえで開催できるよう努めた。</p>
<p>課題</p>	
<p>コロナ感染症により、事業の縮小や中止が数年続き、地域コミュニティの場である社会教育・公民館活動の停滞が余儀なくされた。徐々に行事等も再開しつつあるが、コロナ禍前にも参加者が減少し、特に公民館行事は分館の人集めが課題であり、あわせて行事等のマンネリ化が課題となっていた。そんな中、球技大会では大幅に種目の入れ替えを行い成功している。コロナ禍を見直しの良い機会と捉え、地域コミュニティの場として、積極的な事業展開を図っていく。</p> <p>いっづな大学は新たに受講を希望される方は少なく、継続者がほとんどである。一方いっづな教室の受講者数はほぼ横ばいで、新たな学びのスタイルとなっており、今後の事業の進め方を考えていきたい。</p>	

(2) 生涯学習拠点の充実

重点的な取組等とその状況	評価
<p>【生涯学習係】</p> <p>①町民会館（公民館）、歴史ふれあい館の改修 ②ふれあいパーク運動場照明のLED化と三水B&G海洋センター体育館の改修 ③協働電子図書館「デジとしょ信州」運用開始</p> <p>インターネット蔵書検索^{ウェブOPAC}による町内図書館の貸し出しとともに、協働電子図書館「デジとしょ信州」の参画。</p>	<p>【生涯学習係】</p> <p>①町民会館は建設後34年が経過し、建物や設備等の老朽化が進んでおり、計画的な改修整備のため設計に着手した。また、歴史ふれあい館も合併20周年に向けて、リニューアル基本構想を策定する。</p> <p>②ふれあいパーク運動場照明のLED化を図るため、改修工事に着手した。（3年計画）また、三水B&G海洋センター体育館の老朽化等に対する改修を進めるため、B&G財団の助成事業の申請を行う。ともに、計画的、適切な時期での対応となった。</p> <p>③県と県下市町村がすべて参加した協働電子図書館「デジとしょ信州」が8月からスタートした。当町の登録者数は45人、貸出件数は314件であった。身体的・環境的・地域的・経済的なさまざまなバリアを超えて自由に図書サービスを受けることができるようになった。</p>
<p>課題</p>	
<p>既存の社会教育、社会体育の生涯学習施設は建設から年数が経過し老朽化が進んでいる。長寿命化のため計画的な改修を行っていく必要がある。</p> <p>また、中学校図書館の開放では、中学校図書館の役割の一つである「調べ学習に適した滞在型の図書館」としての利用が全体の約50%を占めている。今後も公民館図書室、中学校図書館の用途に応じた運営が大事になってくる。</p>	



方針Ⅰ 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

【確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進】

≪小学校≫

- ・保育園と小学校の接続を大切にする上で、保育園で行われている「遊び」は「学び」なので、「学び」が楽しいと思うような授業の工夫が必要である。
- ・「主体的な学び」は保育園でも遊びの中で考えていて、友だちと関わりながら課題を解決していく力を大切に、小学校生活につながるように考えている。
- ・教科担任制は連学年で協力することにより、お互いの情報交換にもなりチーム力向上に結び付く。始めたばかりではあるが、成果や課題を明らかにして今後に生かしてほしい。
- ・コロナ禍でバーチャルの対応が目立つようになっている。しかし、子どもたちには実体験を大事にしてほしい。自然に恵まれたこの町の米作り、りんご作りなどに触れる体験を大切に。バーチャルが本物だと思われては困る。
- ・学び方、生き方を教える学校教育も。そのために体験教育を大事にしてほしい。
- ・統合前の小学校を知っているのは6学年のみとなる。区切りの時期が来ているように思う。地域の中で新小学校がどのような位置づけとなるのか。一工夫、二工夫していかなければならない。
- ・コロナ禍で学校のあり方を見直さなければならない時期にきている。今までのような一斉授業が立ちいかなくなってきた。いじめ、不登校、特別支援教育など様々な問題に直面している。また教職員の働き方改革や ICT 教育の導入など。これらの問題の解決のために、一斉授業から脱却し、一人ひとりが楽しく安心して学んだり、学んだことが実感できる学びを進めてほしい。
- ・発達障害について、周りにいる人（児童）の理解が大切。障がいの有無に関わらず何らかの関わりを持っていくという意識をもてるような指導をお願いしたい。
- ・タブレットを用いて学習効果を上げることも必要だが、子どもたちが自ら学ぶ力をつける授業も大切にしてほしい。
- ・タブレット等 IT 機器を当たり前を使うデジタル時代とともに、土とのふれあい、体温の感ずる活動も大切にしてほしい。
- ・生きる力をつけてほしいが、ICT の活用で今は操作に慣れることに重点が行ってしまう。どのような力をつけてほしいのか明確にした授業を展開してほしい。

≪中学校≫

- ・コロナ禍になってからは、生徒自身の相談に加え家族の関係に関わる相談が増えている。また、性別に違和感がある、登校渋り、虐待等、本当に信頼できるようにならないと相談が進まない。教育相談が学習上の相談と同じように心を開いて行われるような環境、仕組みが必要。もしかするとヤングケアラー、ネグレクト、性的虐待等全国的に話題になっているケースもあるかもしれない。そのような場合にも地域の中で見届けていく相談システム（窓口）があると良い。
- ・不登校等学校にいけない生徒に対し、学校や教室以外にも居場所を用意していくことは

大事なこと。学校に行かなければならないという発想から、学校以外にも学べる場はあるという環境を構築し、多様な学びを実現していくことが大切になる。

- ・重点テーマである「自己肯定感の高揚」はとても大切なことで、自分の思いが言えて楽しい学校生活を送ることの重要性を学校は考えている。
- ・生徒たちが気軽に相談できる場をつくり、学校に行きたくてもいけない事に少しでも力になるようにしてほしい。
- ・教師個々での対応ではなく、先生方がチームで子どもたちに関わっていくところを今後も大事にしてほしい。

【グローバル化社会への対応】

《小学校》

- ・タブレットを使った授業では、全員が同じ画面で一斉に学習に取り組むということではなく、自分のペースで進めていけることが良い。次々と新しい画面を操作して限られた時間を有効に活用できている。
- ・タブレットを使った授業で操作に戸惑っている児童も見受けられる。全員が使いこなせるような支援が必要。
- ・タブレットを活用した授業は、教師も慣れるまでは大変だと思われる。研修を積み対応していってほしい。
- ・児童数減少の中タブレットを活用した授業は、個別にじっくり取り組めるチャンスと捉えて進めてほしい。この時期から ICT 学習を積み重ねていくことは意味深いこと。
- ・ICT 導入により地域との関係性がますます希薄になっていくことを心配している。
- ・タブレットの家への持ち帰りにより、使い方や、インターネット利用による危険性について、子どもと保護者が共通認識を持てるような研修も必要。子どもだけでなく、保護者の理解も重要。

《中学校》

- ・コロナ禍で授業の進め方も変わらざるを得ない。そんな中、タブレットを使った授業、先生が2人で行っている授業、外を向いて歌っている音楽の授業等、コロナを機に新しい学習の方法が見いだされている。
- ・高校生がスマホトラブルになるのは1年生が多いと聞く。ネットの危険性については一度学んだらそれで終わりではなく、継続していくことが大事。また、子どもと一緒に親も学ぶことが大切なので、その機会を考えてほしい。
- ・ALT の配置や英語検定の補助などの事業の継続は必要。

【ふるさとを愛する心が育つ教育の推進】

《小学校》

- ・自然豊かなこの町で育って良かったと実感できる学習を進めてほしい。地域住民も子どもとの関わりを大事に学校と連携を深めてほしい。
- ・コロナ禍前まで行っていた料理教室が残念ながらコロナの影響でできていない。郷土料理の伝承や仕事の選択肢の一つとして栄養士を目指すなどの影響のある活動なので、復活を願う。

《中学校》

- ・職場体験等を通じ、地域の様子や地域企業の魅力を伝えながら、ゆくゆくは地元に戻

て地元を盛り上げてくれる人材が出てくることを願う。

- ・町に戻って仕事に就いたり、起業できたりするようなキャリア教育を大事にしてほしい。
- ・地域見守り隊の存在を子どもたちも理解してくれるようになってきた。地域の人たちとの関りから人に騙されないなど、人を見極めていく力をつけていくことが犯罪から自分の身を守るためにも大事になる。

【学校・家庭・地域の連携と協働の推進】

《小学校》

- ・地域住民も子どもへのあいさつを積極的にしたい。最初は不審者に思われることもあるが、継続することが大事。
- ・地域連携という意味からも住民が挨拶を通して関わっていくことが大切。

《中学校》

- ・子育てでは、ネグレクトや愛着障害が心配される。子どもだけに向き合うのではなく、親も含めて支援を行っていくことが大事になる。
- ・人（相手）を意識した挨拶ができています。また、子どもたち同士の関わりのおおむねが明るい。学校で人との関わり合いを大切にしている表れ。引き続き大事にしてほしい。

方針2 子育て・子育て環境の充実

《ワークセンター（iワーク）》

- ・子どもと一緒に参加できるセミナーがあっても良い。
- ・利用者のニーズを把握し、ニーズにあったセミナーの開催を。
- ・育児をしながらスキーム時間で仕事ができる仕事の紹介。
- ・託児料金について、利用者の声を十分に聴き、適正な料金としていくことが必要。

《子育て世代支援施設》

- ・健康・栄養相談や育児相談は定期的な相談日があったりして充実しているが、産後の母の身体やメンタルについて気軽に話せたり相談できる場でもあってほしい。
- ・センターの存在を知っていても行きづらいとの声を聞く。直接の声がけなど最初の一步を簡単に踏み出せるような工夫を。
- ・イベントやお知らせについて、どのくらいの月齢から利用できるのか、うちの子は利用しているのか不安だとの声がある。特に3歳未満児は月齢によって成長に大きな差がある。情報の提供にあたっては、気軽に参加できるような工夫を。

《全般》

- ・一時保育やファミリーサポートセンター事業はあるが、手続等に時間を要したり、急な預かり等に対応できるような事務改善や新規のサービスが必要と思われる。
 - ・二世帯・三世帯同居の減少や移住者が増えてきていることにより、産後のサポート（民間の託児利用、ベビースケールなどのレンタル、産後の母親のケアなど）や補助などの支援を希望する者が増えてきている。
- また、休日に親子で年配の方々と交流、集いの場があると良いなと思っている方もいるよ

うだ。

さらに次のステップ（支援センター利用から就園、保育園から小学校、小学校から中学校）に進むとき、特に就園にあたっての情報が不足しているようなので、情報の提供を望む。

- ・子育て支援の手厚さの発信とともに住む家の確保が必要。
- ・天気の悪い土日（保護者の休日）に室内で走り回れるところ、他の子と一緒に遊べるところが町内にはない。小さな子どもが天気の悪い日に親子で遊べる場所の確保が必要と思われる。
- ・子育て中の世帯では、少しでも自分の時間が持てるような環境づくり、協力体制、頼れる場所があることを望んでいる。

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

- ・コロナ禍でイベントの中止や縮小が続いたが、ようやく少しずつではあるが元に戻りつつある。公民館活動は地域コミュニティの場として重要な役目を担っているが、完全にコロナ禍前に戻ることは難しい。少子高齢化に加えコロナ禍によるこの時間は、特に分館にとっては人集めに始まり行事の実施に頭を悩ませている。
- ・コロナ禍をプラスに捉え、マンネリ化していた行事・イベントの見直しのきっかけにしてほしい。
- ・中学校の部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、早めの準備を。
- ・保育園・小中学校での食育活動を積極的に行っている。学校では子どもたちが食に興味を持ち、給食の楽しさも広がっている。メニューに郷土料理を導入するなど、町の食文化に触れることはふるさと愛を育む一助となるので継続を。
- ・保育園・学校給食での地産地消率をさらに上げていく工夫を。また、有機食材の積極的な利用のため、関係機関と連携し進めたい。
- ・若い人たちの感性をいかに歴史ふれあい館の活動に入れていけるかが大事だ。過去の出来事を集めて紹介することは博物館は得意だが、この町で、産業とともにこれからどうやって生活をしていくかなど、町の将来を問いかける展示、講座ができると良い。

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

- ・社会教育・体育施設の老朽化が進んでいる。計画的に改修を進め、自ら学び、自己を高める環境の整備を望む。
- ・AIやDX化などデジタル社会が進む中、子どもも大人も自然から学ぶことはデジタルからは学べない。町の豊かな自然を生かした生涯学習の推進を希望する。

